

道の駅オープンに向けて

VOL.11

～3つのステーション機能～

- ・回遊交流の拠点となる、地域情報発信ステーション
- ・自由な交流や経済活動が広がる地域活性のステーション
- ・まちの文化と歴史を後世に伝える過去と未来をつなぐステーション
(道の駅施設コンセプトより)

道の駅に関するご提案

道の駅の成功に向けて、町民の方からご提案がありましたのでご紹介します。

受領日：平成30年2月5日(月) 提案者：無記名

◆道の駅への提案

- ・「食」はリピーターを呼び込むため、交流のテーマを「食」にしてはどうでしょうか。
- ・コンセプトに「人生100年健康に生きる」を掲げてはどうでしょうか。
- ・年中、新鮮な野菜を供給できるように道の駅近くに「水耕野菜工場（土を使わず養分が含まれた水溶液で野菜を育てる工場）」を作ってはどうか。
- ・食材にこだわったバイキングレストランのフランチイズ店を誘致してはどうでしょうか。
- ・健康の観点から、豆乳やおからを原料にしたドーナツを販売してはどうでしょうか。

《町としての考え》

道の駅は全国に1,134箇所、道内では121箇所が登録されていますが、ご提案のとおり人気施設に共通するのは「食」の充実です。当町においても、以下の考えから「食」に重点を置いた運営を目指しています。

- ◆食は、歴史や風土で培われた様々な文化の中で、最も人々の期待と関心を集める分野であること
- ◆道の駅のメインターゲット（40代以上の世代層とその家族）が最も関心を抱く分野であること
- ◆食への関心は国を問わず共通であるため、外国人観光客向けの観光振興策につながる可能性があること

また、長寿国である我が国において老若男女の関心は「美と健康」にあると言われておりますので、ご提案のコンセプトを参考に、上質な地場産品を用いた安心・安全な商品の提供を進めたいと考えております。

なお、現在「あびら観光協会特産品開発専門委員会」等が主体となり、商品開発が行われていますが、ご提案のあった地場産豆乳やおからを活用した商品も試作されていますので、継続して開発を進めていきます。

◆道の駅への期待

- ・道の駅では、黒字を出すことに精を出して欲しい。また、開店後も常に集客へのアイデアを出し合い改革を進めて欲しいです。

《町としての考え》

道の駅は、地域の特産品を集め、町内外の人々との交流・つながりを生み出しながら地域活性化を目指す施設であることから、収益性を重視しながら運営するとともに、オープン後も集客性を保てるよう、魅力ある商品や空間創りを継続的に進めていきます。

道の駅グループでは、今後も、ご提案やご意見を参考にしながらオープンに向けた諸準備を進めてまいります。皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

道の駅生産者協議会の動き

2月20日(火)に、道の駅あびら生産者協議会の総会が行われました。

同協議会は、「農畜産物や加工品の販売を通じた農業振興」という目的に賛同する生産者等により昨年度発足。今回の総会では、今年1月に道の駅の名称が決定したことに伴い、会の名称を「道の駅あびらD51ステーション生産者協議会」に変更することが承認されました。

また、オープンまでの事前PR活動として夏場の野菜即売会の実施が検討されたほか、今後の会員拡大の方向性について議論されました。



生産者協議会 第2回定期総会の様子